

◆ Laval Virtual 2003

関口大陸

東京大学



会場となったラバル市の円形ホール

フランスのラバル市において、2003年5月14日から18日にかけて今年で第5回目となる Laval Virtual 2003 が開催された。筆者らは、Exhibition においてデモ展示を行う機会があり、主に Exhibition の報告を行いたいと思う。

ラバル市は、マイエンヌ県 (Mayenne) の県庁所在地で、人口7万人の比較的こじんまりとした地方都市である。パリからは、TGV で西の方向に約2時間で、24時間耐久レースで有名なル・マンの次の駅になる。Laval Virtual は、街の中心に位置する催事場を利用した円形のホールで開かれ、前半3日間が専門家向け、後半の2日間が市民を対象とした一般公開日となっていた。

ホール内には、多数の企業がブースを構え展示をしており、ヨーロッパで開かれる VR 関連の展示としては、最大級とのことである。企業展示のほかに、大学や研究機関による展示もあり、CAVE などを持ち込まれて展示されていた。日本からは、我々の「光学迷彩」のデモと日本電子専門学校の高橋圭子先生による「らくがき」が出展された。会期期間中、Laval Virtual は、多くのフランスの TV や新聞などのメディアから取材を受けており、現地での Laval Virtual への注目度の高さを窺わせた。

一般公開日には、主に Laval 市近郊から集まったと思われる一般市民が多数訪れ、非常に熱気に満ちた展示会となっていた。一般公開の際には、展示を専門家向けから一部入れ替え、一般の人でも楽しんで見られるような構成に変更しており、地元民に対する一種の Virtual Reality の啓蒙活動としても機能しているように感じられた。

Laval Virtual では、上記 Exhibition のほかに VRIC (Virtual Reality International Conference) と呼ばれる国際会議や各種 Tutorial、学生が決められた時間内に制作した VR 作品を競い合うコンテストなども開かれており盛りだくさんの内容となっている。VRIC では、英 Birmingham 大学の Bob Stone 教授や東京大学の舘教授による講演のほか、"Virtual Reality comes of age and mixes technologies", "Interfaces", "Ergonomics" 等のタイトルのセッションが開かれていた。

Laval Virtual は、Laval 市の機関である Technopole が主催しており、学生ボランティアとして地元の大学生 (ISTIA や ESIEA などの大学より) も多数参加していた。Technopole は、主に地元の企業と共同で Virtual Reality に関する研究開発の育成・推進事業を進める機関で、ちょうど岐阜における VR テクノセンターのような役割を果たしているようである。

今回の Laval Virtual の展示では、国立情報学研究所の Frederic Andres 助教授に、特に現地滞在中に多大なるご助力とご協力をいただいた。紙面を借りて感謝の意をあらためて表したい。

<http://www.laval-virtual.org/>



展示会場の様子



フランスの TV 局による取材を受ける「光学迷彩」の実演展示ブース